

令和元年度 中学卒業式 式辞

新型コロナウイルス感染対策のため、このような放送による「卒業式」にせざるを得ない状況は、非常に残念であり、また、卒業生諸君に対して申し訳なく思っております。しかし、現在の社会的状況を踏まえ、ご理解の程お願いいたします。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

三年前の四月七日、あどけなく幼さの中にも希望と不安を抱えながら日大三中の入学式を迎えた皆さんが、今、このように立派に成長を遂げ、義務教育の課程を修了したことに対して私は大変、うれしく思っています。

皆さんにとって日大三中の三年間はどうかだったでしょうか。

小学校では学校も自宅の近くにあり、通学が楽であった環境から、三升入学後は、毎朝、早く起きて電車やバスに乗って登校し、勉強をはじめ部活動、学校行事など、真っ暗になって帰る日々も多かったと思います。学校生活でも夏期学校や修学旅行など楽しい思い出がたくさん出来たはずですよ。また一方で、毎日の生活の中ではつらい、嫌な経験をしたこともあったことでしょう。でも、皆さんは、今、それらすべての経験を乗り越え、義務教育の課程から高等教育へと進んで行くことになりました。更なる、自信と向上心を持って立ち向かってください。

また、本日の卒業を何よりも喜んでいるのはご家族の皆さんだと思います。そのご家族の皆さんには、心からの感謝の気持ちを伝えてください。

さて、卒業にあたり、私からは二つの話をさせていただきます。

皆さん、「夢を叶える」とは、どのようなことだと思いますか。日本大学を卒業して作家として第一線で活躍している吉本ばななさんは小説『海のふた』の中で、次のように書いています。

『夢を叶える』何だと言っても、毎日とはとても地味なものだ。……(毎日)はそういう細かいことにひたすら追われるだけだ。それがつまり『夢を叶える』と世間で言われていることの全貌だった」と。

つまり「自分の夢を実現する」ということは、「毎日、地道にコツコツと、今ある現実に向き合って、一歩ずつ努力を積み重ねることしかない、本当に地味なものである」というのです。地味な作業の向こうにあるものが、「夢」そのものなのです。

実は、皆さんが、真面目に、真剣に取り組むが故に迷うことが生まれ、何かに悩むことが出てくるのです。これは、人生の中では当然の結果なのです。

芸術家の岡本太郎さんは、「自分はあれこれ迷ったら、必ず自分にとってマイナスだな、危険だなって思う方を選ぶことにしてきた。人間は誰でも弱い。自分が大事だから、安心や安定の方に逃げたがる。でも、迷って答えが出ないということは、危険な道の方が、本当の自分が行きたい道なんだ、と考えることにしている」と言っています。所謂、苦労や危険なことは自分から買っても挑戦しろ、と言うのです。

『夢を叶える』ことは、「地道な毎日の積み重ねと苦労の結晶」でしかあり得ない。また、岡本太郎が言うがごとく、人間誰しもが、迷い、悩みながら、それを乗り越えてからこそ『夢が叶う』のです。

皆さんも、これから、毎日が地味で、不安で、迷うことが多いかと思えます。でも、果敢にチャレンジしてください。家族や友人や先輩方が皆さんの応援をしてくれます。義務教育を終えた、これからが本当の人生の始まりです。

二つ目は「人に対して優しい人間」になって欲しいということです。優しさは強さです。本当に強い人とは、人に対して優しくなれる人だと私は信じています。他人の欠点ばかりを責め、人を押しつけて自分の利益を最優先に考える最近の世間の風潮には憂いを感じずにはいられません。

皆さんはこれまでの学校生活の中で、いくつかのつらいこと、しんどい経験をすることがあったことでしょう。実は、自分がつらい経験をした人ほど、その苦しさ分かるので、同じ境遇の人に対しても優しくなれるはずですよ。

人のつらさやしんどさが分かる分、優しい人になれたはずですが。高校生活でも、またつらい思いをすることが待ち受けているかも知れません。その時は、日大三中の卒業生として、これまでに乗り越えてきた経験を糧に、たくましく、そして人には優しく接してください。他人に対して優しさを持った人間には、自分が困ったときには、誰かが必ずや手を差し伸べてくれる人が現れるはずですが。日大三中の卒業生として、是非、他人に対して「思いやりの心」を身につけていってください。

「夢を叶えるとは地道な努力以外、何ものでもないということ」、そして、「人に対して優しさを持つこと」。この二つを今日、この卒業式の日にお話をいたしました。

最後になりましたが、本日、参列して頂けなかった保護者の皆さまには心からお祝いと御礼を申し上げます。本日をもちまして、中学校三年間の課程を終えられ、義務教育の九年間が終了されました。さぞや感慨もひとしおだと拝察いたします。

この三年間、教職員が丸となって、卒業生の成長を見守りつつ、精一杯努力したつもりではありますが、至らない点も多々あったかとも思います。それにもかかわらず、本校に、私たち教職員にお寄せくださいましたご理解とご協力に対して、心より御礼申し上げます。本当に、ありがとうございます。

さあ、卒業生の皆さん。次のステップに向かって、胸を張って、笑顔で旅立ってください。皆さんの前途に幸多かれと祈りつつ、私からの式辞とさせていただきます。

令和二年三月二十一日

日本大学第三中学校 校長 新井勇治

